

金融経済環境

当中間期の我が国経済は、平成23年3月の東日本大震災以降停滞していた企業の生産活動が部品供給の復旧等により持ち直していることや、個人消費等も緩やかながらも回復基調にある一方、ギリシャの債務問題に端を発する欧州信用不安や急激な円高の進行、株式市場の停滞など、依然として不透明な状況が続いております。

当行が主要な営業基盤としている北部九州においても、生産活動や個人消費等が緩やかに持ち直しているものの、円高や海外経済の減速等への警戒感は引き続き強い状況にあります。

他方、金融業界では、資金需要が低迷し、また資金運用利回りが低下する中で、金融機関相互の競争はますます激しいものとなっております。

平成23年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めてまいりました。平成23年度中間期の業績は次のとおりです。

◆預金、貸出金等

当行単体の財政状況につきまして、平成23年9月末の譲渡性預金を含めた預金等は前期末比では135億円減少、前中間期末比では324億円増加し、1兆8,664億円となりました。

一方、平成23年9月末の総貸出金残高は、前期末比では26億円増加、前中間期末比では135億円増加し、1兆2,130億円となりました。

有価証券につきましては、平成23年9月末残高は前期末比では469億円増加、前中間期末比では924億円増加し、6,284億円となりました。

◆収益状況

当行単体の業績は、経常収益で前中間期比7億32百万円減少の201億42百万円となりましたが、足元の国内景気が緩やかに回復する中、取引先への経営支援の取組み強化等により与信関係費用が減少し、経常利益は前中間期比83百万円の減少の48億2百万円となりました。一方、中間純利益は固定資産の減損損失の大幅減少等により前中間期比7億99百万円増加の28億73百万円となりました。

◆当行グループの業績

当行および連結子会社の業績は、連結経常収益で前中間期比8億38百万円減少の204億円、連結経常利益で前中間期比1億92百万円減少の49億66百万円、連結中間純利益で前中間期比7億97百万円増加の28億90百万円を計上いたしました。連結中間純利益の増加には当行単体での固定資産減損損失の大幅減少等が影響しています。

当行および連結子会社の財政状態につきましては、平成23年9月末の譲渡性預金を含めた預金等は前期末比136億円減少の1兆8,603億円となり、総貸出金残高は前期末比26億円増加の1兆2,130億円となりました。また、平成23年9月末の連結自己資本比率（国内基準）は、前期末比0.32%ポイント上昇し12.20%となりました。